

交付金

経済・地域の活性化、安全・安心の確保

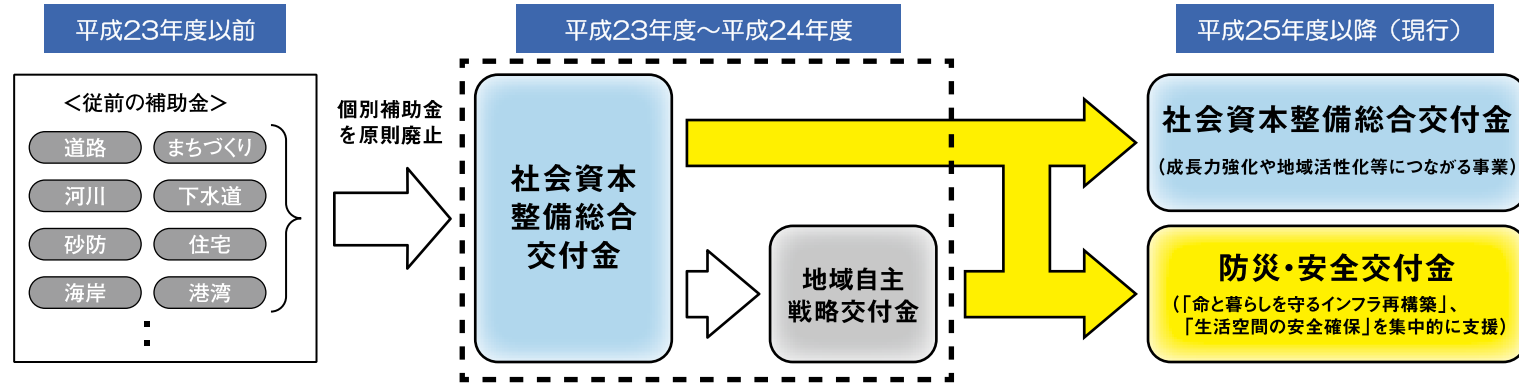
社会資本整備総合交付金と防災・安全交付金

社会資本整備総合交付金

国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として平成22年度に創設。

防災・安全交付金

地域住民の命と暮らしを守る総合的な老朽化対策や、事前防災・減災対策の取組み、地域における総合的な生活空間の安全確保の取組みを集中的に支援するため、平成24年度補正予算において創設。



両交付金の特長（個別補助金との違い）

- ◇ これまで事業別にバラバラで行ってきた関係事務を一本化・統一化
- ◇ 計画に位置付けられた事業の範囲内で、地方公共団体が国費を自由に充当可能
- ◇ 基幹となる社会資本整備事業の効果を一層高める事業についても、創意工夫を生かして実施可能

主な交付金事業の紹介（都市・住宅関連）

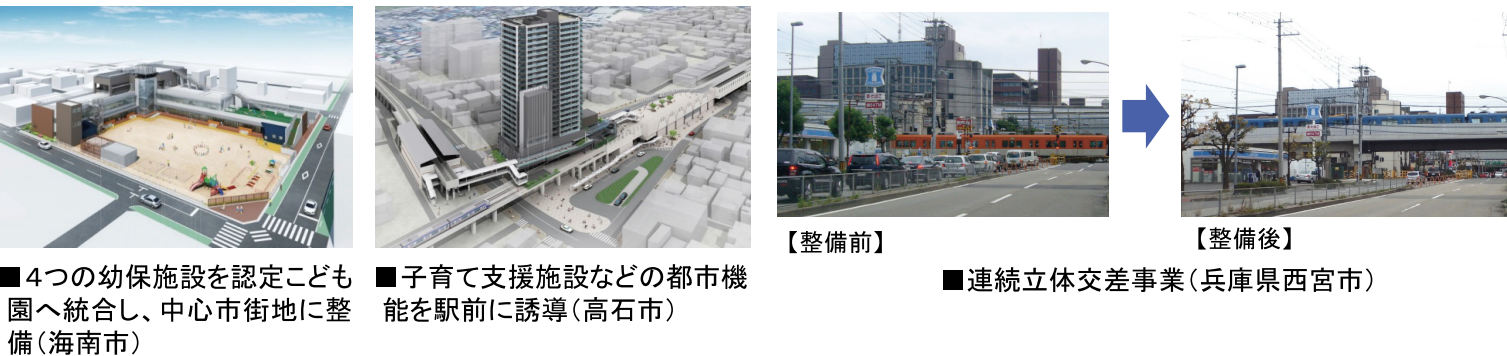
① 地域における総合的な防災・減災対策、老朽化対策等に対する集中的支援

国土強靱化等の取組により国民の安全・安心の確保を推進する観点から、頻発する風水害・土砂災害や大規模地震・津波に対する総合的な防災・減災対策、インフラ長寿命化計画を踏まえた総合的な老朽化対策等を緊急に進める総合的な整備計画に対して重点的に支援します。



② 活力ある地域の形成、豊かに暮らせる生活環境の整備、及び競争力強化のための社会資本の総合的整備

経済・地域の活性化を推進する観点から、都市・地域の競争力を強化する成長基盤の整備、「コンパクト＋ネットワーク」の推進や豊かな生活環境の整備、観光・産業振興の取組の強化など、PPP/PFIの活用等により官民の多様な関係者が連携して取り組む、あるいは民間投資を喚起する総合的な整備計画に対して重点的に支援します。



計画

快適で豊かな暮らしを目指し
歴史とイノベーションによるアジアとの対流拠点

関西広域地方計画（平成28年3月策定）

関西広域地方計画とは？

「対流促進型国土の形成」を目指した新たな国土形成計画（平成27年8月策定）に基づき策定された。近畿圏2府4県を対象とし、関西に蓄積された経験と多様なポテンシャルを最大限活用し、今後目指すべき10年間の関西の将来像実現に向け、8つの主要プロジェクトを掲げている。

目指すべき関西の将来像

歴史とイノベーションによるアジアとの対流拠点

快適で豊かに
生き生きと暮らせる圏域

アジアのゲート
ウエイトを担い、我が国の成長エンジンとなる圏域

日本の歴史・伝統文化が継承し、世界を魅了し続ける圏域

暮らし・産業を守る
安全安心圏域

人と自然が共生する
持続可能な圏域

環境先進圏域

主要プロジェクト

- 1 関西ゲートウェイ+ネットワークプロジェクト
- 2 関西成長エンジンプロジェクト
- 3 歴史・文化・おもてなしプロジェクト
- 4 京阪神爆々まちづくりプロジェクト
- 5 地方都市活力アッププロジェクト
- 6 農山漁村いきいきプロジェクト
- 7 関西強靱化・防災連携プロジェクト
- 8 環境共生プロジェクト

計画の効果的推進と今後の取組

計画の着実な実行・効果的な推進に向け、近畿地方整備局も参画している近畿圏広域地方計画協議会の中で、主に以下の2項目について進めていきます。

① 広域連携プロジェクト（8主要プロジェクトを跨ぐ先行的な成功事例）の推進
② 主要プロジェクトのモニタリング（進捗把握・管理）

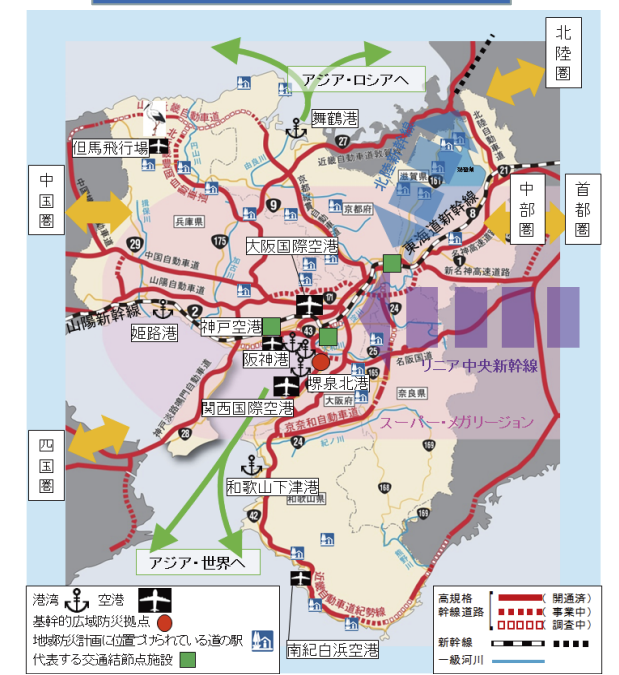
【平成28年度実施内容】

- 効果的推進のための組織整備、●広域連携プロジェクトの選定
- モニタリング対象事業および評価指標の選定

【平成29年度実施予定】

- 広域連携プロジェクトのPT会議開催、●広域連携プロジェクトに関する各種調査、●モニタリング成果の公表

目指すべき関西の将来像のイメージ図



新たな取り組み

『i-Construction』（アイ・コンストラクション）

建設現場における一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善し、建設現場に携わる人の賃金水準の向上を図るとともに安全性の確保を推進

現場の生産性に関する現状

- 労働力過剰を背景とした生産性の低迷
- 生産性向上が遅れている土工等の建設現場
- 依然として多い建設現場の労働災害
- 予想される高齢化による労働力不足

取り組みについて

ICT技術の全面的な活用

- ① UAV等を用いた3次元測量
- ② 3次元データによる設計・施工計画
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 検査の省力化

全体最適の導入

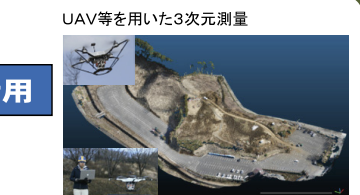
- ① 規格の標準化
- ② 現場打ち・プレキャストの生産性向上

施工時期の平準化

- ① 工事着手時期の柔軟な運用等
- ② 地方自治体への普及・展開

（近畿地整独自 PLUS 1）

受発注者のコミュニケーションによる施工の円滑化



規格の標準化	目的	工法等の例
現場打ちの効率化	工場の標準化	鉄筋・型枠のプレハブ化 鉄骨型枠（ハーフプレキャスト）
現場作業の効率化	現場作業の効率化	鉄筋の配筋 機械式定着工法 コンクリート打設 高流動コンクリート
プレキャストの生産性向上	現場製作における効率化	サイズの規格化
	現場作業の効率化	部材を細分化する工法 部材を効率的に結合する工法

目指すべきものについて

- 一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善
- 建設現場に携わる人の賃金水準の向上を図るなど、魅力ある建設現場へ
- 建設現場での死亡事故ゼロに
- 「きつい、危険、汚い」から「給与、休暇、希望」を目指して

近畿地整の体制の強化

i-Constructionを推進するための体制を強化

- ◇ i-Construction推進本部【本部長：局長、部長級会議】
- ◇ i-Construction推進本部幹事会【幹事長：企画部長、官級会議】
(平成28年2月15日設立)

◇ 近畿ブロック i-Construction推進連絡調整会議 (平成28年3月22日設立)

■ 企業経営者を対象とした現場見学会開催 (平成28年3月25日開催)

■ i-Construction近畿サポートセンターの開設 (平成29年4月)